

投与した L-8-VP test は Cushing 病 Hardy 手術後の follow-up に有用である可能性が示唆された。

特別講演

クッシング病の治療について

岸和田市民病院
院長 景山 直樹 先生

第26回新潟化学療法同好会

日時 昭和62年6月20日(土)
午後3時
会場 ホテルイタリア軒

一般演題

1) HIV 抗体の検出状況について

星野 弘之・嶋津 芳典
五十嵐謙一・田崎 和之 (新潟大学第二内科)
庭山 昌俊・和田 光一
荒川 正昭

私達は、昭和62年2月1日より外来受診者の HIV 抗体測定を開始した。昭和62年5月末までの外来受診者は、男性134名、女性46名計180例で、受診動機は、異性交118例(うち外国人と56例)、男性同性愛10例(うち外国人と1例)、風俗営業の女性9例、輸血・血液製剤使用者22例、ビザ取得のため2例でした。外来受診者においては、HIV 抗体は全例陰性でした。尚この他、他施設からの37例で1例 HIV 抗体陽性例を認めましたが、その症例は血液製剤使用例でした。

2) 臨床分離菌の ofloxacin 感受性の推移

尾崎 京子・高野 操 (新潟大学検査部)
小柳 典子・狩野 倫佳

私達は最近の臨床分離菌の OFLX 感受性について、1985年のデータと比較し、その推移及び耐性菌について検討したので報告する。ディスク感受性で $\#$ 以上を感性とし、感性率を集計した。

S. marcescens は1985年が86.7%でその後が71.7%と低下していた。*P. aeruginosa* は93.3%が84.2%へ、*S. aureus* は100%が87.0%へと低下していた。*S. marcescens* を除く腸内細菌9菌種、*H. influenzae*、*S. pneumoniae*、*B. catarrhalis* はいずれも95%以上の高い感性率であった。

耐性菌の増加していた菌種について検討した。

P. aeruginosa は入院より外来の方が分離頻度が高く、外来の多くは喀痰由来株だった。*S. aureus* は逆に入院での分離頻度が高かった。検体別では全体に尿からの分離頻度が最も高かった。*S. aureus* の CEZ 感性株と CEZ 耐性株で OFLX の耐性を比較したところ、CEZ 耐性株で有意に OFLX 耐性株が多い(18.8%)という結果が得られた。

3) New Quinolone 剤の眼科的応用

一点眼剤について

大桃 明子・坂上富士男 (新潟大学眼科)
田沢 博・大石 正夫

新キノロン剤である Norfloxacin (NFLX) 点眼剤の基礎的・臨床的検討を行った。

家兎眼を用いた 0.3% NFLX 点眼液 2滴 1回点眼時の経時的結膜嚢内滞留濃度は5分後 1340 $\mu\text{g/ml}$ で15分後 1/2, 30分後に 1/4 となり以後すみやかに減少したが6時間後でも 8.3 $\mu\text{g/ml}$ 証明された。同剤 2滴 5分毎 5回点眼時の眼組織内濃度は正常家兎眼で外眼部組織に 0.38~7.84 $\mu\text{g/g}$ 、眼球内部に 0.01~0.68 $\mu\text{g/g}$ 、炎症眼で外眼部に 0.23~39.8 $\mu\text{g/g}$ 、眼球内部に 0.01~41.5 $\mu\text{g/g}$ の移行がみられた。正常眼では角膜に、炎症眼では角膜・前房水に高濃度を認めた。

これまで行われた 0.3% NFLX 点眼薬の pilot study の成績では、累積有効率は NFLX 1日3回点眼群で 89.1%、1日4回群 87.3%、MCR 点眼群 88.1% であり数値的には NFLX 1日3回群が良好であったが統計的には各群間に有意差はみなかった。この秋に発売予定の OFLX 点眼液の pilot study の成績は、0.3% OFLX 群で 98.5% の累積有効率で、0.5% 群 97.5%、MCR 群 89.8% で統計学的に 0.3% 群で MCR 群より有意にすぐれていた。その他の各群間に有意差はみられなかった。

4) 抗生物質の蛋白結合の研究

庭山 昌俊・星野 弘之
嶋津 芳典・田崎 和之 (新潟大学第二内科)
五十嵐謙一・和田 光一
荒川 正昭

セフェム系抗生剤から蛋白結合率の高い Cefazolin (CEZ) を選び、CEZ の血清蛋白結合の基礎的検討を行った。蛋白結合率の測定は遠心限外濾過法で行った。

CEZ の濃度と蛋白結合の関係の検討では、濃度が 10~100 mcg/de では、蛋白結合に殆んど影響はなかつ

た。

Monitrol 血清を用いた血清蛋白濃度の蛋白結合の影響の検討では、蛋白濃度が 2g/dl 以下と低下すると蛋白結合率は低下した。

クレアチニン、クレアチンは、100mg/dl 以上の高濃度では、蛋白結合率の低下がみられた。

セルローズ、アセテート膜を用いた電気泳動法によるバイオオートグラフィにより、CEZ は血清蛋白中のアルブミンと結合することが窺われた。

セファデックスのゲル濾過法により、慢性透析患者血清と正常者血清の蛋白結合は、ゲル濾過で解離する弱い結合であった。

5) 第3世代セフェム剤の体内動態について

山作房之輔・鈴木 康稔(水原郷病院内科)

第3世代セフェム剤7剤を同一の健康成人被検者5名にそれぞれ1gを持続注入器で定速度で1時間で注入した際の血清中濃度と尿中濃度を測定し、体内動態を比較した。

注入終了時の平均最高血清中濃度は CMNX 109.3, LMOX 98.7, CBPZ 84.8, CAZ 61.2, CZX 59.9, CMX 53.7, CTX 46.6 μg/ml で、CTX を除く6剤の8時間後の濃度は CMNX の 5.4, LMOX の 4.7 μg/ml が高く、CMX は 0.1, 他の3剤は 1 μg/ml 台で、CTX は6時間後に 1.0 μg/ml であった。8時間後までの尿中回収率は CMNX の89%を筆頭に CZX 79, CBPZ 78, CAZ 77, LMOX 75%, CMX 62%, CTX 55%であった。T_{1/2}(β)は LMO × 1.9, CMNX 1.8, CZX 1.6, CAZ 1.5, CBPZ 1.4, CTX 1.3, CMX 0.8時間、AUC は CMNX 294, LMOX 231, CBPZ 171, CAZ 119, CZX 104, CMX 71.8, CTX 61.7 μg·h/ml で、血清中濃度を中心とした体内動態は CMNX が最も優れ、次いで LMOX であった。

6) 抗生物質の髄液移行の検討

—FOM, ABPC, DKB, CMD, CAZ, CXM について—

倉田 和夫(長岡中央総合病院) 整形外科

抗生物質の髄液内移行についての報告は少ない。私達は腰痛などの症例に水溶性造影剤により脊髄造影ミエログラフィを施行する際に、採取した髄液の一部を検体として髄液移行濃度の経時的推移を検討した。

この結果今回検討した各抗生物質の移行濃度は

FOM > CAZ > CXM > ABPC > CMD = DKB の順で、FOM 以外は極めて低い傾向を示した。FOM は分子量は小さく、蛋白結合度も低く、半減期も長い抗生物質であるが、他剤に比して良好な髄液内移行濃度を認めた。

これらの一連の検討から髄液移行濃度の表示には、抗生物質投与2時間後の血清/髄液比(C/S値)と、実測濃度値を併記することが、臨床上薬剤の選択に有用と考えた。

更に FOM 4.0 g. を手術開始2時間前に投与することにより、予防投与の立場から、術後感染予防に有効な薬効を期待できるものと判断した。

7) 抗生物質の滲出性中耳炎貯留液中への移行に関する研究

—滲出性中耳炎における細菌の関与—

富山 道夫・田中 久夫(新潟大学医学部) 耳鼻咽喉科学教室
今井 昭雄

滲出性中耳炎(以下 OME)は従来無菌性中耳炎として扱われてきたが、近年小児の OME については細菌学的、免疫学的、生化学的 approach がなされインフルエンザ菌、肺炎球菌を始めとする細菌の関与が立証されてきた。そして OME を独立した疾患と考えず急性中耳炎からの連続性変化としてとらえること、OME の成因に上咽頭細菌叢の関与があることなどが報告されている。そこでわれわれは OME に対する抗生物質療法に着目し、その第一段階として OME の中耳貯留液中への移行を測定した。また OME 罹患児と OME 非罹患児の上咽頭細菌叢の比較を行い若干の文献的考察を加えた。

8) Ceftizoxime (CZX) の頸部リンパ節への移行に関する検討

田中 久夫・鈴木 正治(新潟大学耳鼻科)
富山 道夫・今井 昭雄

富樫 孝一(新潟県立がんセンター新潟病院耳鼻科)

新潟県立がんセンター新潟病院耳鼻咽喉科において1986年4月より1987年3月までの12カ月間に、頸部郭清術を行った症例のうち22例でセフェム系抗生物質 Ceftizoxime (CZX) の頸部リンパ節への移行に関する検討を行った。2g one shot 静注にて平均30分後81.7 μg/g, 60分22.5 μg/g, 120分17.0 μg/g とリンパ節内濃度を示した。また、リンパ節移行率も高く30分、60分、120分とも40%前後であった。耳鼻咽喉科領域の感染症に対し P. aeruginosa 以外の起炎菌に対しそ